

疼痛は、麻酔科、神経内科、整形外科で多く扱われる病態であり、腎臓内科や透析専門医が必ずしも得意な分野といえない。しかし、疼痛は透析患者の約半数以上に認められ、程度は中等度から重度である。しかも75%の患者は不十分な治療が治療されていない。

今回総説を加藤先生に、また的確な診断が良い治療には欠かせない、痛みの定義と病態機序を杉浦先生に概説していただいた。疼痛は患者の睡眠やQOLおよびうつ状態に悪影響を与える由々しき問題である。それゆえに心理・精神的な要素を含めた全人的なアプローチが必要になる。それについて看護学の立場から西山先生、精神医学的な立場から西村先生、緩和ケアの立場から有賀先生に書いていただいた。腎機能障害があるために薬理学的に鎮痛薬の投与が難しいという側面もある。

薬物療法には千葉・井関先生に、非薬物療法が必要となる症例もあると思われ神経ブロックを三枝・齋藤先生に、鍼灸治療を川嶋先生に、リハビリテーションを森山先生に書いていただいた。現在透析医療の中心は患者の2/3を占める高齢者であり、導入患者の40%を占める糖尿病患者である。高齢者の疼痛を竹下先生に、糖尿病の疼痛について田中先生そして近年増加してきている虚血痛について日高先生に書いていただいた。

最後に透析に特有と思われるシャント関連疼痛を土田先生、アミロイド関連痛を西先生に書いていただいた。いずれも力作である。本号が透析患者の疼痛軽減・改善に役立ってくれることを期待する。

(伊丹儀友)

2022年(Vol. 38)特集のご案内

- No.① 透析患者の心臓病—診療の最前線を学ぼう
- No.② 腎性貧血治療の課題と対策—HIF-PH阻害薬, ESA, 鉄剤をめぐる
- No.③ 多職種連携による透析医療
- No.④ 便秘と慢性腎臓病・透析医療
- No.⑤ 透析療法における各種モニタリングのFront line
- No.⑥ CKD診療における漢方と補完代替療法

- No.⑦ バスキュラーアクセスの作製・管理・修復の基本方針〔増刊号〕
- No.⑧ もっと知ろう 透析室での腎移植問題—腎移植と透析の移行期
- No.⑨ 痛みを訴える透析患者にどう対応するか
- No.10 透析医療のジェンダーダイバーシティ
- No.11 腎不全に携わる看護職のキャリアを支援する

(既刊は○)

臨床透析® Vol.38 No.9

© 2022年 8月 10日発行
定価: 2,860円
(本体 2,600円 + 税 10%)

年間予約購読は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <https://www.nmckk.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2022, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎ 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所/株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話(03)3814-8541